

南畑いわみ農園

三木市

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容

草刈り・ブドウ枝のせん定・出荷準備



作業手順のマニュアル化を進め ブドウ栽培を身近に感じて成長してほしい



代表の宮未来さんは、2013年に神戸市から三木市に移住。高齢化と後継者不足に悩む南畑農業生産組合所有のブドウ園の経営を引き継ぎ、2021年から「南畑いわみ農園」として、夫と二人でブドウ栽培に取り組んでいます。

ブドウは7品種を栽培し収穫時期を分散、ほぼすべてを直売用に出荷しています。同組合から継承する栽培面積が現在の64aからさらに増える見込みであることや、繁忙期の人出不足に対応するため、2024年7月に三木市内のB型事業所とインターンシップを実施、委託契約を結びました。

20歳前後が多く、農作業は初めてとなる事業所利用者のことを考え、どういった作業ができるかを支援員とじっくり相談。ブドウ棚周囲の草刈りや摘心、箱折りやバック容器のセットなどの出荷準備、休眠期の「仮せん定」作業などを委託しています。年間を通じて安定して働けるように、今後はブドウ栽培の工程ごとにマニュアル化を進め、徐々に作業を増やしていく予定です。「自然の中で仕事をする楽しさを知ってもらい、何か一つでも自身の成長につながれば」と、作業を行う利用者の成長に期待を寄せています。

作業上の工夫点や報酬について

ブドウ栽培には枝のせん定や果房管理など、専門技術がないと難しい作業が多いので、工程のひとつひとつを洗い出して、まずは協力し合ってできる簡単な作業から始めました。誰もが理解できるように、手順を写真で示すなど分かりやすい説明を心がけています。

草刈り（草刈り機は安全なナイロンコードを使用）や「仮せん定」は1aあたり、出荷箱や容器パック準備は1箱（1セット）あたりの単価を決めて出来高払いとしています。



代表の宮 未来さん

（2024年12月取材）